

福島第一原子力発電所沖の水温、塩分、海流観測結果

土居七奈美（海上自衛隊 海洋業務群司令部）

海上自衛隊海洋業務群司令部の土居七奈美様から、東日本大震災後の海上自衛隊の救助活動について紹介がありました。震災直後に、海上自衛隊から艦艇60隻、航空機約20機以上、人員約16,000名の災害救助派遣があったことが報告されました。被災地の一員として、厚く御礼申し上げます。

また、2011年5月に福島第一原子力発電所沖で実施した貴重な観測結果についての報告がありましたが、幹事担当機関である東北区水産研究所の担当者が原稿を紛失し、また報告者は異動のため、すべての資料を消去したため、原稿を復活することができませんでした。幹事担当機関の不手際を深くお詫び致します。かわりに発表の中で示されたまとめの部分をここに掲載します。

①2011年5月上旬に福島第一原発沖約30NM付近において、「わかさ」が観測したデータを基に水温・塩分構造、流れを把握した。

②水温・塩分構造から、観測海域の南側上層に黒潮が存在し、6日には南下。南東の水深400m以深では親潮水が湧昇し、6日に点13の表層で低温・低塩分化を確認した。

③点A、Bの表層では、0.2~0.4m/s程度の南への流向が卓越していた。6日から7日にかけて点Bの表層で低温・低塩分化、北への流向を確認したことから南東から親潮水が流入した。

④以上の解析結果と、海中放射性物質のモニタリングの状況を合わせて考察した結果、放射性物質が宮城県沿岸で活動している海上自衛隊員に与える影響は小さいと考える。

⑤この観測データは他の海洋機関に提供し、シミュレーション評価やモデルの同化等にも貢献した。

文責 伊藤進一（東北区水産研究所）